

科目名: 行動科学		科目コード	FL71	
科目主査: 池内 健治		担当講師: 益井 常明	単位	4
			配当年次	2
授業の目的と概要	グループワーク: <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	個人ワーク: <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	カテ・マイクの必要性: <input type="checkbox"/> 必須 <input type="checkbox"/> 望ましい <input checked="" type="checkbox"/> 不要	
<p>人間の行動を科学的・総合的・学際的に研究する学問として発展してきた行動科学は、いろいろな場面で実践的に活用されています。その研究領域は、個人的行動の特性、組織内の行動、社会的・経営的行動、さらに社会や文化にかかわる人間行動です。これらの行動科学諸理論を概観し、その基本的考え方とともに応用領域における理論とその成果を理解します。さらに人間行動研究のマネジメントにおける重要性を認識し、問題発見、問題解決に欠かせない人間的要素を考慮できる人間形成を目的とします。</p>				
履修の前提となる科目	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	科目名:		
履修の前提となる知識 その他特記事項	<p>初学者向けです。コミュニケーションや心理学などの科目をすでに履修した方は、復習を兼ねていただく所もあります。事前にテキストを熟読し、わからない点や自信のない点をマーキングしておきましょう。</p>			
テキスト	『行動科学』森田 一壽,産業能率大学			
この科目の到達目標	<p>①行動科学とは何か、行動科学はマネジメントの研究領域に対してどのような貢献をしたかを説明することができる。 ②行動科学の知識・理論を使って様々な人間行動を分析・理解し、日常生活で生じる様々な問題に対して行動科学の知識・理論を応用することができる。</p>			
成績評価の方法	<p>最終試験と1日目の課題で総合的に評価します。最終試験は学習した内容を自分自身の経験に置き換えた理解を論述することが求められます。チャットによる建設的な意見も加点評価します。 授業開始時間後の遅刻は減点の対象とします。</p>			
事後学習	身近な個人や組織の問題をとらえて、行動科学の視点から具体的に考えてみましょう。			
事後学習の参考文献	<p>『行動科学の展開』P.ハーシー/K.H.ブランチャード/D.H.ジョンソン,生産性出版,2000年 『組織行動のマネジメント』ステファン・P.ロビンス,ダイヤモンド社,2009年 『ワーク・モチベーション』G.P.レイザム,NTT出版,2009年</p>			
スクーリング受講時に用意するもの	<input checked="" type="checkbox"/> テキスト <input checked="" type="checkbox"/> 筆記用具			